

彩球オーディオ倶楽部

松並希活先生を偲ぶ会

2022年5月21日(土)に久喜市総合文化会館小ホールにて、当倶楽部の設立にご尽力いただいた恩師松並希活先生を偲ぶ会が開催されました。当初2020年5月の開催を予定しておりましたが、新型コロナ感染の拡大があり延期せざるおえない状況が続いておりました。このたびワクチン接種も進み、ようやく蔓延防止等重点処置も解除されたことから、蔓延防止処置を十分に行いながらの開催となりました。

当日はあいにくの小雨の降る天候となりましたが、松並先生が製作した11台のアンプが試聴できる数少ない機会とあって、150名あまりのオーディオファンが会場に集まりました。



受付前の検温と消毒のコーナー



会場のようす

1. 開会のあいさつ

樫村会長の開会のあいさつに続き、来賓の挨拶として「MJ無線と実験」誌の磯野貴志編集長、MJ誌ライターの岩村保雄先生、松並先生との親交が深かった株式会社サン・オーディオの内田昌穂会長と内田満社長から、松並先生を偲ぶ思い出話がありました。



榎村会長



「MJ無線と実験」誌
磯野貴志編集長



「MJ無線と実験」誌
ライター 岩村保雄先生



サン・オーディオ
内田昌穂会長



サン・オーディオ
内田満社長

「松並先生を偲ぶ会」を開催するにあたり、松並先生と親交の深かった多くの企業様よりご協賛を賜りました。来賓の挨拶のなかでも紹介がありましたが、改めて感謝申し上げます。(五十音順)

- ・株式会社 エイフル 様
- ・株式会社 サン・オーディオ 様
- ・株式会社 誠文堂新光社 様
- ・ゼネラルトランス販売株式会社 様
- ・株式会社 トライオード 様
- ・橋本電気株式会社 様

2. 松並先生製作のパワーアンプ試聴

(1) カソード結合位相反転回路、直熱ビーム4極出力管採用 RCA1619

プッシュプルアンプ 3.5W (長島俊一氏所有) 直熱&傍熱管アンプ p141

松並先生が30年以上前に製作したアンプで、初段を6J5GTのSRPP、位相反転段を6SN7のカソード結合型とし、RCA製の1619をプッシュプルで駆動しています。整流は5U4Gを使った両波整流です。松並先生から譲渡されたときには発表された当時の回路から変更が加えられ、また部品の劣化もあったため、発表時の回路に戻すとともに劣化した配線材と電解コンデンサ等の交換を行ったそうです。

歌謡曲やラテンにぴったりの、明るくて軽快なサウンドです。はじけるようなパーカッションがとてもリアルで、ボーカルの高音の伸びがとても気持ちのいいアンプでした。



(2) オールウェスタン球使用 300B シングルアンプ 6.8W (松並先生所有)

松並先生所有のアンプの紹介は、岩村先生にお願いいたしました。当初このアンプは初段管に WE418A、出力管に WE252A が用いられていたそうです。残念ながら WE418A と WE252A が見つからなかったため、WE310A と WE300B を用いて試聴することになりました。整流管は WE274B を使用しています。出力管のカソードバイパスコンデンサは、メーカーに特注したフィルムコンデンサが使われています。掲載紙が確認できなかったのですが、おそらく「直熱&傍熱管アンプ p175」の回路に近いのではと思われます。試聴に用いた曲は、生前松並先生が試聴会で好んで用いていた音源から選曲したそうです。中音域が充実した、やさしく心地よい音色のアンプでした。



(3) WE350B 相当管を使用した WE367A プッシュプルアンプ 9.3W (松並先生所有)

MJ2014 年 11 月号 p60

初段管に五極管接続の C3g を用い、6J7 の PK 分割で位相反転を行って、WE367A をプッシュプル駆動しています。整流は 5U4GB による両波整流です。WE367A は外周器の中央部分が膨らんだ提灯のような可愛らしい外見をしています。ヒーターをセラミックスリーブに入れて高信頼化を図った WE の技術による 6L6GA 同等管だそうです。CR 結合されたビーム管プッシュプルアンプ特有のワイドレンジでパワフルな音です。女性バイオリニストのヒラリー・ハーンが演奏するバッハの無伴奏バイオリンパルティータ第 3 番第 3 楽章が、とてもリアルで印象的でした。



(4) トランス結合で古典 3 極管をドライブ RCA50 プッシュプルアンプ

9.5W モノラル 2 台構成 (篠義治氏所有) 直熱&傍熱管アンプ p168

松並先生が実験や検証に使用していたらしく、譲渡されたときには回路の修正と追加が加えられていました。そこで、増幅回路を「直熱&傍熱管アンプ p168」に掲載された回路に戻すとともに水銀整流管 83 を使うことにし、83 用に準備されたヒートアップ用スタンバイスイッチの代わりとなる 2 分間のタイマーを整流回路に加えたそうです。発表記事では初段管とドライバ管のプレート間に 150k Ω の抵抗を介して約 6dB の負帰還をかけることができる旨の記載がありますが、負帰還はかけていないそうです。

トランスドライブ特有の中音域が充実した音です。特にボーカルが美しく、とても印象的でした。サン・サーンスの交響曲第 3 番ハ短調第 2 楽章のダイナミックなパイプオルガンも忘れることができません。



4 台のアンプの試聴のあと、20 分間の休憩となりました。

休憩のあと次のアンプの試聴に入る前に、柳沢正史先生から松並先生とウエスタンエレクトリックの 300B の出会いについて、またその頃の思い出話を語っていただきました。



「MJ 無線と実験」誌
ライター 柳沢正史先生

(5) RCA VT25 プッシュプルアンプ（長島俊一氏所有）掲載紙が確認できませんでした。

ジャズやクラシックをパワーのあるアンプでガツンと聞きたいと思い、松並先生から譲り受けたそうです。トリタンフィラメントが美しく輝くアンプです。音も明るく華やかで、山下達郎の「Love Can Go the Distance」を軽やかに演奏しました。繊細な弦の響きの表現やピアノの力強さも申し分ありません。



(6) トランス結合でシンプルな回路を実現 WE437A ドライブ 300B シングルアンプ
直熱&傍熱管アンプ p57

ハイ μ ・低rp 3極管によるトランスドライブを採用した 300B シングルアンプ
MJ1997年7月号 p130

8. 4W (櫻村会長所有) 初段管が C3g に、出力管が WE339A に変更されています。

譲渡されたときには、すでに初段管が WE437A から C3g に、出力管が WE300B から WE339A に変更されていました。おそらく、松並先生が主催した第30回真空管アンプ試聴会に出品するため、先生が変更したものと思われます。銘板が WE300B のままだったので、櫻村会長が WE339A に変更したそうです。WE339 は 300B とは一味違う送信管特有の爽やかな音色です。低域から高域までのバランスがよく、コンサートホールの雰囲気がよく出ていました。



(7) 肩の凝らない「癒しのサウンド」を目指して オールトランス結合 300B
プッシュプルアンプ 21W (櫻村会長所有) MJ2006年8月号

松並先生のアンプとしては珍しく、入力トランスが使われています。位相反転を UTC 製の入力トランスで行い、プッシュプル接続した 12AU7 で ISO 製の段間トランス NC-16 を駆動して 300B を励振しています。MJ 誌では出力管が WE300B で発表されていますが、今回はプスバン 300B で試聴しました。

トランスドライブ特有の中音域が充実したボーカルの表現力が素晴らしいアンプです。エラ&ルイの「アラバマに星落ちて」がとても印象的でした。シンプルな回路で心地よい音色、そして十分なパワー、松並先生の笑顔が思い出される珠玉の一品です。



(8) 3種類の回路で特性と音質を検討 ソヴェック 300B プッシュプルアンプ 21W
(樫村会長所有) MJ1998年3月号 p44

譲渡された状態から、初段が 12AU7 の SRPP から 6SL7 を用いたバランス型増幅回路に、カソード結合型位相反転回路の真空管が 6FQ7 から 6SN7 に、出力管 300B のメーカーがソヴェックからセトロンに変更されています。

ローコストな 300B プッシュプルアンプを設計するため、松並先生が試作を繰り返して回路の検討を行ったアンプのようです。オーナーのシステムに組み込むため譲渡後に調整が施され、上記の構成に落ち着きました。CR 結合の特徴がよく出た、重低音から高音までバランスよく表現するアンプです。特に印象に残ったのは、重厚な音色で表現した美空ひばりの「川の流れのように」でした。



プログラムでは休憩後にサン・オーディオ様のデモン
ストレーションがある予定でした。しかし、今日はじっく
り松並先生のアンプを試聴したいという内田社長の意向か
ら、製品紹介の代わりに松並先生との個人的なお付き合
いの話、特に先生が愛した車について語っていただきまし
た。

また、次のアンプの試聴に入る前に、協賛企業の橋本
電気様とゼネラルトランス販売様から提供されたトランス
のオークションがありました。



オークションのようす

(9) トランス結合で2本の300Bをドライブ 300Bパラシングルアンプ 18W
(松並先生所有) 直熱&傍熱管アンプ p72

初段管に6J5を用い、CR結合された6AH4でTANGO製の段間トランスNC-
14を駆動して並列接続された300Bを励振しています。整流は2枚のプレートを並
列接続した5U4を2本使って両波整流しています。発表時の出力管はWE300Bで
したが、当倶楽部に搬入されたときにはJJ300Bが挿入されていました。ドライバ
管の欠落があったため、当倶楽部にて修復して試聴できる状態にしました。

シングルやプッシュプルとは一味違う、柔らかさと力強さを兼ね備えた音色で
す。トランスドライブなので、ボーカルに艶があります。ホリー・コールの歌う
「テネシーワルツ」にうっとり聞き惚れてしまいました。試聴に用いた曲はアンプ
を発表したときのソースを使っているそうです。



(10) RCA 6550 プッシュプルアンプ 32W (村山清氏所有)

掲載紙が確認できなかったのですが、おそらく「余裕ある出力 32W と高音質を両立したモノラル構成 6550 プッシュプルパワーアンプ」MJ2013年10月号 p52の構成に近いのではと思います。CR 結合されたビーム出力管プッシュプルらしく、歯切れがよく力強い音色です。いっぽうジャシンタの歌う「Somewhere Over the Rainbow」では、女性ボーカルを優しく表現する繊細さも持ったアンプでした。



(11) B 電圧 1kV、トランスドライブ、RCA 845 プッシュプルアンプ 75W
モノラル2台構成 (篠義治氏所有) MJ1995年1月号 p164

松並先生が完成時に Star dust と名付けたアンプです。シャーシの色も星空に合うように、樫村会長がブルーに塗装しました。OPTはタムラの特注品です。固定バイアスなので、たまにバイアスを調整するメンテナンス作業が必要とのこと。ウクライナに早く平和がもどるようにと願いを込めて、最後の試聴曲がムソルグスキー作曲展覧会の絵から「キエウの大門」に変更されました。



試聴に用いたラインアンプ

直熱 3 極小型出力管 71A を使用した CD 用ラインアンプ MJ1997 年 10 月号 p126

発表時は 71A の 2 段増幅でしたが、初段が傍熱管の 76 に変更されています。
ラインアンプの上にある装置は、スピーカーの音量を計測する VU メーターです。



3. リクエストタイム

出品された 11 台のアンプから、観客席の皆さんの挙手で選ばれた RCA845 プッシュプルアンプで、ベートーベンの交響曲第 9 番第 4 楽章を試聴しました。特に力強く響く合唱は、トランスドライブされたハイパワーアンプの本領発揮といったところ です。

4. 閉会の挨拶

少し時間が押ししてしまいましたが、櫻村会長の閉会の挨拶で無事に「松並先生を偲ぶ会」の終了となりました。残念ながら新型コロナ感染拡大防止のため懇親会は開催されませんでした。松並先生から託された「オーディオは楽しい！」というバトンは、確実に次の世代に引き継がれたと感じました。なお、受付にてお預かりした松並先生へのご香典は、先生のご家族にお渡ししてご仏前にお供えしていただくようお願いいたしました。

次回は 2022 年 10 月 22 日（土）に久喜市総合文化会館にて、第 70 回記念発表会を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

松並先生の製作したアンプの詳細情報は、下記の書籍をご覧ください。

- ・オーディオ総合月刊誌「MJ 無線と実験」（誠文堂新光社）
- ・「直熱&傍熱管アンプ」松並希活著（誠文堂新光社）ISBN4-416-10204-6